# 教職課程における教養教育実践演習
## －ゴルフ実技指導を例として－

大沢　宥介

# Practical Golf Guidance in a Liberal Arts Teacher Training Practicum

Yusuke Osawa

## Ⅰ．はじめに

教育職員免許状を取得するためには，教育職員免許法執行規則第 66 条の 6 で「体育(2 単位)」を習得することが定められている。

日野ら[1]の履修ならびに授業内容に関する調査報告では，調査を行ったすべての大学で共通教育・教養教育として教職科目「体育(2 単位)」を教職科目のカリキュラム上の位置づけとして実施している。

授業形態に関して日野ら[1]によると，講義のみの大学はなく，実技のみが 8 大学(36.4%)，実技と講義を組み合わせた内容や実技中に講義を含めた授業など，各大学により授業形態の違いが挙げられた。教職を意識した内容については，対応している大学が 15 大学(68.2%)，対応していないと回答したのが 7 大学(31.8%)であったことが調査結果により明らかとなった。

文部科学省[2]では，大学における体育・スポーツは，初等中等教育の時期と社会人とをつなぎ，生涯にわたるスポーツ習慣の形成・定着の観点から重要な役割を持ち，様々なスポーツに挑戦し，その意義や価値観を体験することができる時期であることと，各大学がそれぞれの特色を生かしつつ，その充実を図っていく必要があると説明している。

本研究では，J 大学の一般教養体育(集中講義ゴルフ)を履修している学生を対象に調査研究を行った。

大学ゴルフ授業の実施状況について三幣ら[3]は，現在実施している大学が 67%というデータを示した。講義については，講義形態によるエチケット・マナー・ルールが 81%というデータを示している。

特にゴルフは，他の競技と比較してエチケット・マナーを重視する競技である。米川ら[4]も，ゴルフは，ルールそのものがエチケットから始まる唯一のスポーツであるといった特殊性を考慮した授業計画や展開あるいはその成果が望まれるとしている。

以上のことからゴルフは教材として，今後の教職科目「体育(2 単位)」を発展させるうえで，スポーツ習慣の形成に加えて道徳的な価値観の形成も兼ね備えた重要な教材といえよう。

## Ⅱ．方法

### 1．対象者

本研究の対象者は，J 大学に在籍する学部 1 年生と大学院 1 年生から 3 年生までのゴルフ未経験者である。被験者として，一般教養体育(ゴルフ)を履修した男子(27 名)，女子(5 名)

の合計 32 名とした。本研究の参加に先立ち，　　た。
被験者には事前に説明を行い参加の了承を得

## 2. 授業期間およびゴルフ集中講義日程

授業期間は，2017 年 9 月 25 日(月)～9 月 29 日(水)に実施。

| | 9　月　２５　日 | 9　月　２６　日 | 9　月　２７　日 | 9 月 28，29 日 |
|---|---|---|---|---|
| 午前 | 9：00<br>体育館　集合<br>ガイダンス(講師：Ⅰ教授)<br>「基礎練習Ⅰ」<br>体育館<br>・ゴルフの基礎知識<br>・クラブの持ち方<br>・構え方<br>・基本スイング<br>・安全とマナー | 9：00<br>実技(講師：Ⅰ教授)<br>「基礎練習Ⅲ」<br>(陸上競技場)<br>・アイアンクラブの打ち方<br>50 ヤード<br>70 ヤード | 9：00<br>実技(講師：Ⅰ教授)<br>「基礎練習Ⅳ」<br>(陸上競技場)<br>・バンカーショット<br>・アプローチショット | 8：40<br>集合，出発<br><br>ゴルフ場にて<br>講義(講師：M 教授)<br>「ゴルフコースでのルールとマナー」<br>11：00<br>昼食(クラブハウス) |
| 午後 | 昼食<br>13：00　集合<br><br>実技<br>「基礎練習Ⅱ」<br>(近隣のゴルフ練習場) | 昼食<br>13：00　集合<br><br>実技<br>「ロングクラブ練習Ⅰ」<br>ロングアイアン<br>ドライバー<br>(近隣のゴルフ練習場) | 昼食<br>13：00　集合<br><br>実技<br>「ロングクラブ練習Ⅱ」<br>ロングアイアン<br>ドライバー<br>(近隣のゴルフ練習場) | 12：00<br>アプローチ練習<br>パター練習<br>14:00 ラウンド体験<br>17:30 ゴルフ場出発<br>18:30 頃大学到着<br>レポート作成<br>19：00 解散 |
| | 大学バスで移動 | 大学バスで移動 | 大学バスで移動 | 大学バスで移動 |

※午前　体育館練習では，プラスチックボール使用
　陸上競技場では実球
※28 日，29 日については，組数制限の為 2 グループに分かれて体験ラウンドを行った。

## 3. 調査方法と調査内容

2017 年 9 月 25 日(月)～9 月 29 日(水)の授業終了後に，毎回ゴルフ練習場および大学体育館で学習記録用紙の感想欄に自由記述方式で記入をした。学習記録については毎回その場で回収をした。これらの感想については，小

林[5]によって提唱されているカテゴリー分析を用いて平木ら[6]の先行研究を参考に分析を行った。

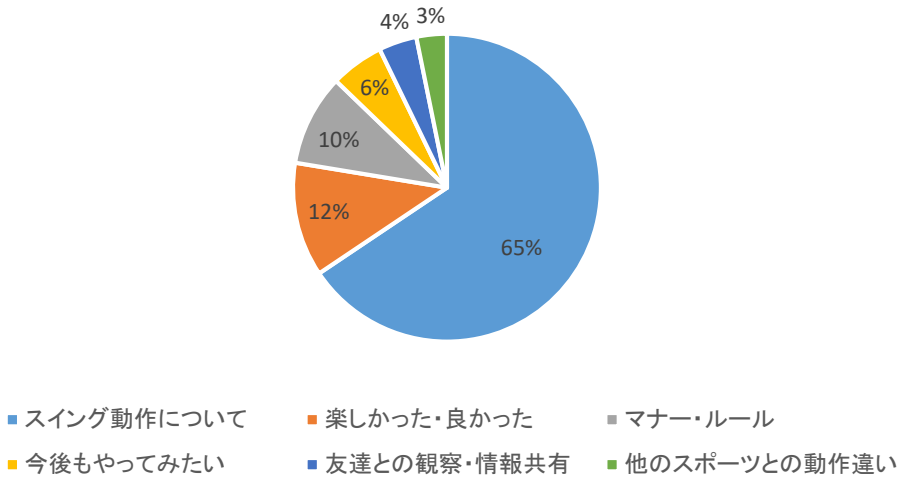
さらに，カテゴリー分別を行った分類の一部を，釜賀[7]の先行研究を参考にテキストマイニング[8]を用いた分析方法で今後の授業改善の課題を見出すことを目的に分析を行った。

## Ⅲ．結果および考察

### 1．自由記述感想文

ゴルフの学習に関する自由記述の回答によって「スイング動作について」「楽しい・やってよかった」「ルール・マナー」「今後もやってみたい」「友達との観察・情報共有」「他のスポーツとの動作違い」の 6 つにカテゴリー分類することができた。その結果を図 1 に示した。

図1　自由記述による感想文の分類




**分類 1　スイング動作について**

自由記述の回答の割合で，全体の 65%を示した。

考察：授業時間の多くが実技実習となった為，高い割合を示したことが推察される。

スイング動作について学生の感想から，「理論を抑えてから練習することにより，考えながら打つので効果的だと思った」「段階を踏むと上手に行くようになった」「段階を踏んで教えてくれたので結び付けて考えることができ理解できた」といった意見が見られた。未経験者の受講生ということもあり，なかなか上手に当てられない場面も見られたが，「理論を抑えてから打つと効果的だと思った」といった意見から，練習時間を区切って，指導者が段階的に基本動作の再確認を行ったことが効果的だったと推察する。

**分類 2　楽しかった・よかった**

自由記述の回答の割合で，全体の 12%を示した。

考察：「楽しかった・良かった」というカテゴリーでは，全体の 12%であった。全体の数値結果からは高い値を示していないが，学生の回答からは「ゴルフの基礎的な技術も重要だが，マナーといったゴルフを楽しむ素となる部分を学べて良かった」「相手を褒めることの大切さに気づくことができ，ゴルフを体験す

ることができて良かった」「コースでは，良いショットが打てた。紳士的な行動・思考ともに希な経験ができてゴルフ授業を選択して良かった」など，道徳的な感想を得られた。これらのことから，ゴルフ特有の「ゴルフの精神」から規律ある行動を学べたのではないかといえる。

### 分類３　ルール・マナー

自由記述の回答の割合で，全体の 10%を示した。

考察 : ゴルフでは他のスポーツと異なり，審判が存在せずセルフジャッチを原則とする。最終日の午前にエチケット・マナー講習を行った。加えて，午後からはラウンド体験学習となる為，必要最低限とされるルールの講義を行った。

全体の 10%という結果は，割合から見ても少ない値と言わざるを得ないが，「ゴルフ以外でも活かせることがたくさんある」「技術も大事だが，マナーやモラルが大切だと感じた」「礼儀について教育にも応用できる。人として当たり前の教訓もあり，とてもためになった」など，午前の講義で一定の理解を得られたことはゴルフ授業にとって以上のことが非常に大切な部分を担っているといえる。

### 分類４　今後もやってみたい

自由記述の回答の割合で，全体の 6%を示した。

考察 :「今後やってみた」と回答したのは全体の 6%と極めて低い値となった。今回初めてのラウンド体験が雨天だったことが低い値を示した要因ともいえる。回答では，「先生方の話を聞いて練習場で打つということをしたが，自分は楽しいと感じていなかった。しかし，基礎練習は無駄ではなく，コースでは楽しむことができ，また機会があったら続けていきたい」「継続できるものならしてみたい」といった回答を得た。ゴルフは練習場だけでなく，コースを体験することでゴルフというスポーツの醍醐味を知り，生涯スポーツとして発展していく可能性がある。しかし練習場での技術向上も必要な要因であり，練習場での学習内容を改善する必要があることも示唆された。

### 分類５　友達との観察・情報共有

自由記述の回答の割合で，全体の 4%を示した。

考察 : 打球練習では，2 名が交互に実技練習を行った。回答では，「自分はどの部分で正しいスイングができているか，友達と共有することでお互いに成長していくのが楽しかった」「自分だけでは分からないスイングのダメなポイントも他の人がいれば比較的容易に気づくことができ練習しやすかった」など，互いのスイングを観察しアドバイスを出し合いながら技術向上を目指した回答が得られた。学生たちは意欲的に取り組んでいたといえる。今後簡易的なスイングチェックリストがあれば互いにセルフチェックができ早期技術向上に繋がると推察される。

### 分類６　他のスポーツとの動作違い

自由記述の回答の割合で，全体の 3%を示した。

考察 : 回答では，「野球やバトミントンをしていたので素振りのモーションや重心移動がとても難しく思えた」「野球と同じと思っていたがほとんど違った」など野球動作の違いに困惑している学生も見られた。しかし，石井ら[9]の先行研究から，バッティングおよびドライバーショットでは，下肢によって骨盤を回転させるタイミングや，骨盤を回りに回転させる能力に共通した技術要因や体力が存在する

可能性が示唆されたことから，今後は野球経験者や打撃動作を習得している学生に対してのスイング習得の指導法が今後の課題である。

## 2. テキストマイニングを用いた自由記述の分析

カテゴリー分類で分類された一部データー(スイング動作について)をフリーソフト，ユーザーローカルテキストマイニングツール [10]を用いて分析を行った。

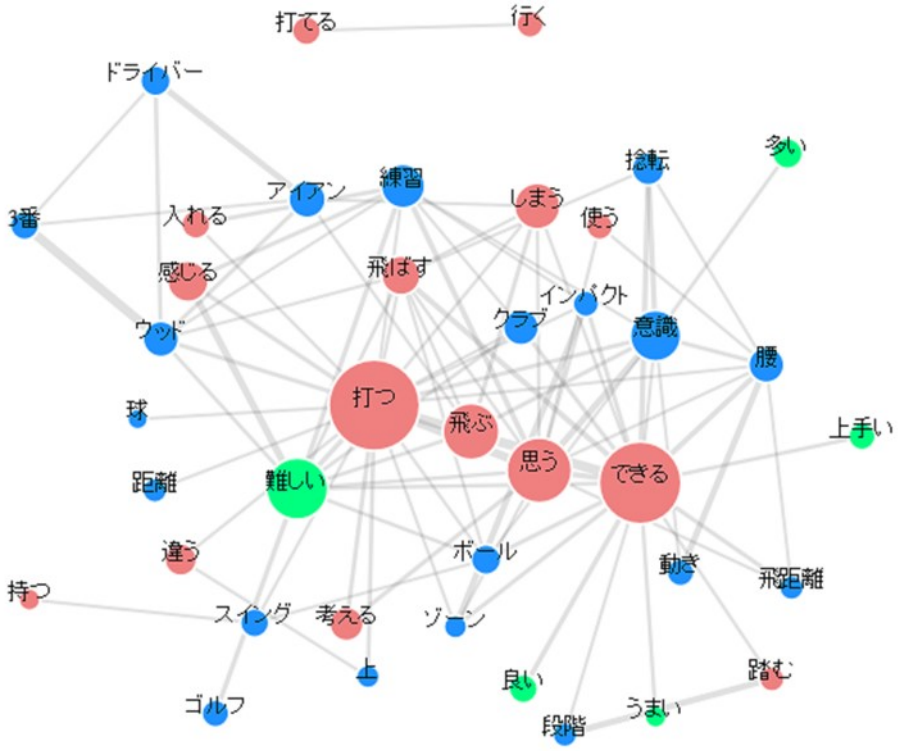
自由記述中の頻出語の上位 30 語を抽出した結果を表 1 に示す。次に，カテゴリー分類で分類された「スイング動作について」の全自由記述のデータを用いて，共起ネットワーク図を作成した。共起ネットワークは，文章中に出現する単語の出現数が強い語ほど円が大きく描画する。また，出現パターンが似たものを線で結び，共起の関係が強いほど太い線で描画する。色は品詞を表す。共起ネットワーク図で作成した結果を図 2 に示した。

なお，今回のテキストマイニングの活用は，ゴルフを履修する未経験者の学生が実技指導において，基礎的な理論とスイング技術の習得が円滑に進む為の方法を見出すことを目的とした。

表 1　自由記述上位 30 語の抽出結果(スイング動作について)

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 名詞 | 意識 | 26 | 動詞 | 打つ | 44 | 形容詞 | 難しい | 27 |
| 名詞 | 練習 | 21 | 動詞 | できる | 39 | 形容詞 | 多い | 9 |
| 名詞 | アイアン | 16 | 動詞 | 思う | 29 | 形容詞 | 良い | 8 |
| 名詞 | 腰 | 15 | 動詞 | 飛ぶ | 24 | 形容詞 | 上手い | 7 |
| 名詞 | ウッド | 15 | 動詞 | しまう | 18 | 形容詞 | やすい | 5 |
| 名詞 | クラブ | 15 | 動詞 | 感じる | 15 | 形容詞 | うまい | 4 |
| 名詞 | 捻転 | 13 | 動詞 | 飛ばす | 14 | 形容詞 | 高い | 4 |
| 名詞 | ボール | 11 | 動詞 | 考える | 11 | 形容詞 | 正しい | 3 |
| 名詞 | ドライバー | 11 | 動詞 | 違う | 10 | 形容詞 | 新しい | 3 |
| 名詞 | スイング | 10 | 動詞 | 入れる | 8 | 形容詞 | いい | 3 |
| 名詞 | 3番 | 10 | 動詞 | 打てる | 8 | 形容詞 | くい | 3 |
| 名詞 | 動き | 9 | 動詞 | いく | 8 | 形容詞 | 長い | 3 |
| 名詞 | ゴルフ | 9 | 動詞 | 使う | 7 | 形容詞 | 悪い | 2 |
| 名詞 | インパクト | 8 | 動詞 | 行く | 7 | 形容詞 | にくい | 2 |
| 名詞 | 使い方 | 7 | 動詞 | 踏む | 6 | 形容詞 | 気持ちよい | 2 |
| 名詞 | 段階 | 7 | 動詞 | 分かる | 6 | 形容詞 | 小さい | 2 |
| 名詞 | 距離 | 7 | 動詞 | わかる | 6 | 形容詞 | 力強い | 1 |
| 名詞 | 飛距離 | 7 | 動詞 | 付ける | 4 | 形容詞 | 痛い | 1 |
| 名詞 | イメージ | 6 | 動詞 | させる | 4 | 形容詞 | すごい | 1 |
| 名詞 | 上 | 6 | 動詞 | 持つ | 4 | 形容詞 | 細かい | 1 |
| 名詞 | ゾーン | 6 | 動詞 | すぎる | 4 | 形容詞 | 難い | 1 |
| 名詞 | 手首 | 5 | 動詞 | 直す | 4 | 形容詞 | 強い | 1 |
| 名詞 | 脱力 | 5 | 動詞 | 知る | 4 | 形容詞 | 悔しい | 1 |
| 名詞 | フォーム | 5 | 動詞 | 変わる | 4 | 形容詞 | 少ない | 1 |
| 名詞 | 注意 | 5 | 動詞 | 回る | 4 | 形容詞 | づらい | 1 |
| 名詞 | ミート | 5 | 動詞 | それる | 4 | 形容詞 | 低い | 1 |
| 名詞 | 正確 | 5 | 動詞 | 力む | 3 | 形容詞 | 早い | 1 |
| 名詞 | 様々 | 4 | 動詞 | 抜く | 3 | 形容詞 | 遅い | 1 |
| 名詞 | 大事 | 4 | 動詞 | 伸びる | 3 | 形容詞 | ゆるい | 1 |
| 名詞 | 球 | 4 | 動詞 | おく | 3 | 形容詞 | 大きい | 1 |

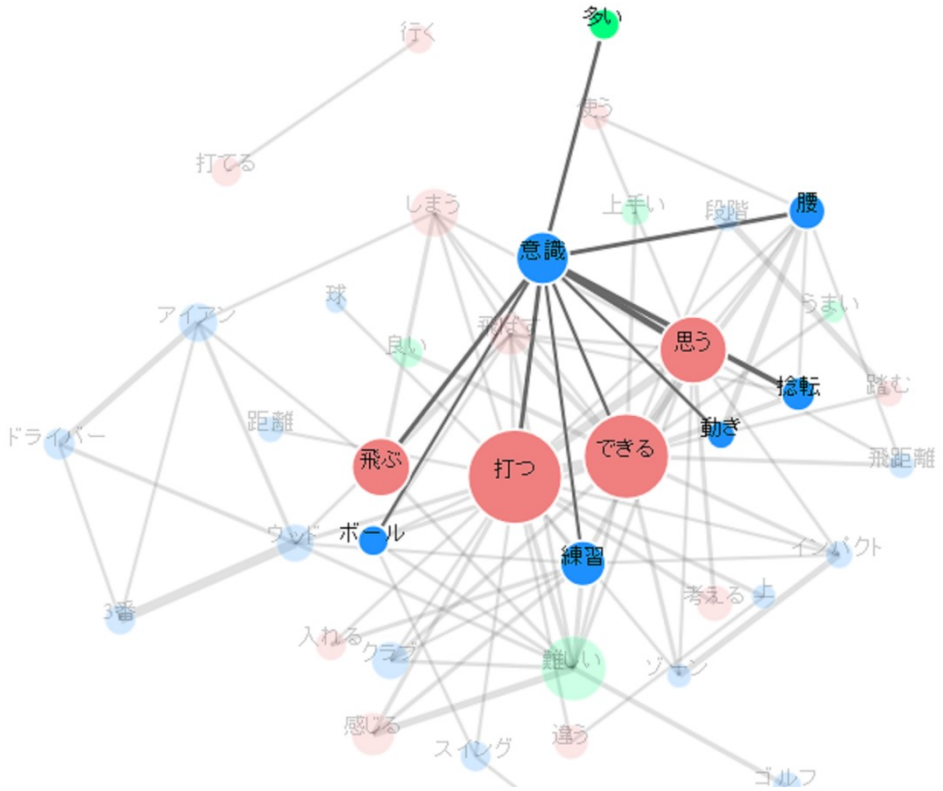
図２　「スイング動作について」の共起ネットワーク




「スイング動作について」全自由記述のデータを用いて共起ネットワーク図を作成したところ，「スイング動作について」に関する共起ネットワークの関係が明らかとなった。「スイング動作について」表示された中心語句の「打つ」「できる」と結びついた語句の共起ネットワークの関係を図３に示した。

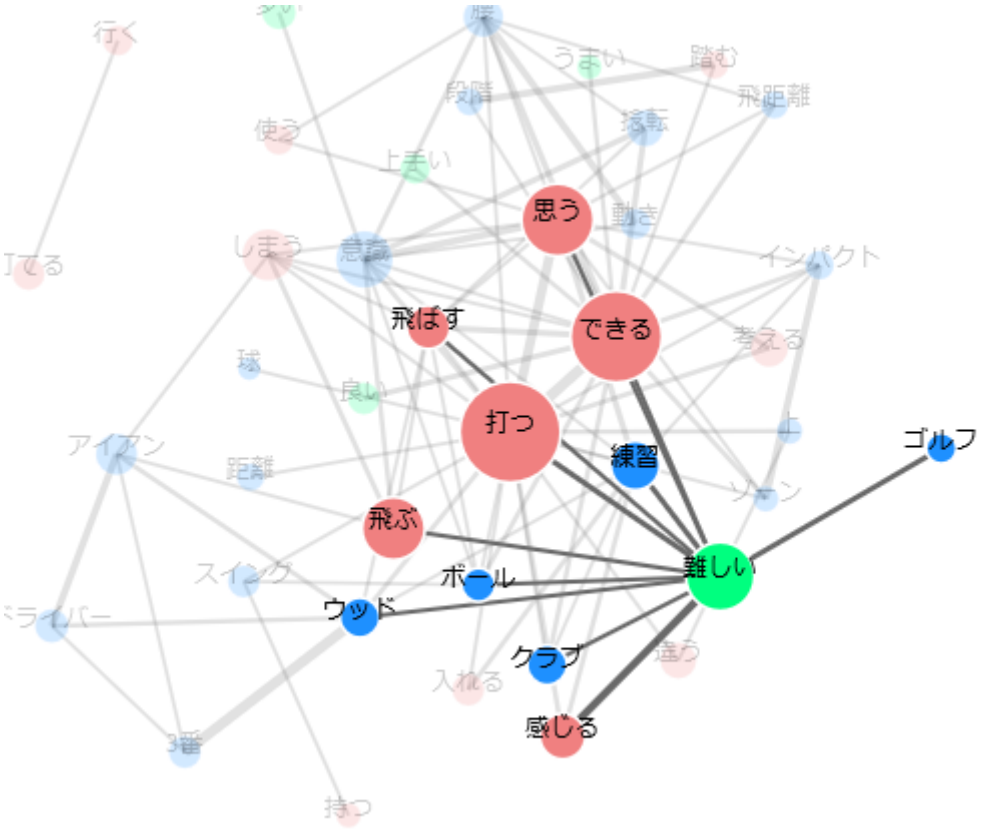
今回の授業で，「打つ」「できる」と結びついた語句は，「捻転」「意識」「腰」と描画され「腰と捻転を意識することで打つことができた」ということが示された。未経験者の学生でも，ゴルフスイングは体幹部を意識することが理解できたと推測される。

図３　「打つ」「できる」に関連する共起ネットワーク




次に，同じデータを用いて「難しい」に関連された共起ネットワークの関係を図 4 に示した。「難しい」と関連された共起ネットワーク図に関係を示した語句は，「ウッド」「飛ばす」「打つ」であった。「ウッド」の語句については，フェアウェイウッドも含まれている可能性がある。フェアウェイウッドは，ティーアップをせずに直接芝生の上(マット)から打つことが可能なクラブである。ゴルフ未経験者にとってフェアウェイウッドを扱いきれないことは上達の要因を妨げる可能性がある。今回の調査では，フェアウェイウッドについて技術指導に関連した文献を見つけ出すことができなかった。今後の実技実習において，フェアウェイウッドを扱う要点が早期習得できる指導法を模索していきたい。

図４　「難しい」に関連する共起ネットワーク




## Ⅳ．まとめ

本研究では，J 大学で行われた一般教養体育(ゴルフ)の受講生を対象に自由記述文の感想から分析を行い，今後の授業内容や指導法の課題を明らかにすることを目的とした。よって以下の結果が得られた。

### 1．自由記述による感想分のカテゴリー分類

「スイング動作について」は，段階的なスイング指導が有効である。

「楽しかった・良かった」については，学生は実技の楽しみだけでなく，ゴルフ特有の「ゴルフの精神」から規律ある行動が学べたといえる。これらのことから，一般教養の教材としてゴルフは，道徳的な意識や価値観を形作る教材として重要な役割も担っているといえる。

「ルール・マナー」については，「マナーやモラル」「礼儀」などから社会性をうかがえる回答が得られたことから，道徳的な価値観の形成を担ったと推察される。

「今後もやってみたい」については，本講義はラウンド体験が雨天と重なったことが影響していると推察されるが，「練習場では，自分は楽しいと感じていなかった」といった意見があることから，練習場での学習内容に改善する余地があるといえる。

「友達との観察・情報共有」については，チェックシートを用いた慣用的セルフチェックができる教具が必要とされる。

「他のスポーツとの動作違い」については，今後野球経験者や打撃動作を習得している学生に対しての学習方法を検討していきたい。

## 2. テキストマイニングによる「スイング動作」の分析

テキストマイニングによる分析結果から，体幹部を意識した捻転動作でゴルフスイングができたと推察される。また，今後の実技指導では，フェアウェイウッドについて，指導の改善余地があることが示唆された。

以上の結果から，本研究で得られた結果を基に，学習内容の修正と指導法の開発をしていきたい。

## 引用文献

1) 日野克博(愛媛大学)，杢子耕一(中京大学)，小林勝法(文教大学)：教員免許法対応の「体育(2 単位)」の履修並びに授業内容に関する調査報告．日本体育学会　指導者・育成資格特別委員会教職必修体育作業部部会(2016)
2) 文部科学省：大学における体育・スポーツの充実. www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpad199801/hpad199801_2_053.html
3) 三幣晴三，光永吉輝，竹田幸夫：日本における大学授業の実施状況に関する調査研究．駒澤大学総合教育部紀要 4　2010 年 pp.445-464
4) 米川直樹，鶴原清志：大学体育実技におけるゴルフ授業の一例．(シンポジウム　シラバスに基づいた授業展開、それぞれの教材で何を教えるか，シンポジウム，平成 7 年度大学体育指導者研修会(中央研修会))　1995 年 22 巻 2 号 pp.36-41
5) 小林篤：体育授業分析方法論．体育学研究 43　1998 年 pp.71-78
6) 平木宏児，溝畑寛治，木谷織信：余暇生活実習(ゴルフ)における授業の評価．追手門学院大学社会学部紀要　第 8 号 2014 年 pp.65-76
7) 釜賀誠一:テキストマイニングを用いた授業評価の自由記述の分析と対策．尚絅大学研究紀要　人文・社会科学編第 47 号 2015 年　pp.49-61
8) ユーザーローカル　テキストマイニングツール (https://textmining.userlocal.jp/) による分析
9) 石井泰光，山本正嘉，図子浩二：体幹部の鉛直軸回りの回転運動から見た野球の投球とバッティングおよびゴルフのドライバーショットの類似性．体育学研究 55 2010 年 pp.63-79
10) ユーザーローカル　テキストマイニングツール(https://textmining.userlocal.jp/) による分析

## 参考文献

(1) 杉山進：大学体育の教養について．体育・スポーツ哲学研究 31-2　2009 年 pp.87-93
(2) 横井康博：大学生のスポーツ活動へのコミットメントに関する一考察～スポーツコースに所属する学生を事例に～．星城大学経営学部紀要 9，2010 年 pp.23 - 42
(3) 清水一彦：大学設置の大綱化と大学の変貌. 日本教育行政学会年報 20 巻　1994 年 pp.25-37
(4) 市村由美，鈴木優：テキストマイニング技術と応用．東芝レビューvol.56　No.5 2001 年
(5) 渡部勇：テキストマイニングの技術と応用．情報の科学と技術 1 号　2003 年

pp.28 - 33
(6) 今尚之：自由記述分の分析に対するキーワード分類法の適用．言語センター広報 language studies 第 4 号 小樽商科大学言語センター 1996 年
(7) 永塚史孝：教職課程における実践体験活動(2). 研究ノート 国際関係学部研究年報第 35 集 2014 年 pp.89-104

**執筆者紹介（所属）**
八戸学院大学 地域経営学科 助手